Informatica® Cloud Data Integration

Salesforce Analytics コネクタ

Informatica Cloud Data Integration Salesforce Analytics コネクタ
2022 年 10 月

© 著作権 Informatica LLC 2015, 2022

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複写、写真複写、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、Informatica Cloud、および PowerCenter は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web（https://www.informatica.com/trademarks.html ）にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、https://www.informatica.com/legal/patents.html を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2022-12-06

目次

序文 4

Informatica のリソース 4

Informatica マニュアル 4

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト 4

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ 4

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレース 5

データ統合コネクタのドキュメント 5

Informatica ナレッジベース 5

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center 5

Informatica グローバルカスタマサポート 5

第 1 章 : Salesforce Analytics コネクタについて 6

Salesforce Analytics について 6

Salesforce Analytics コネクタアセット 6

Salesforce Analytics オブジェクト 7

JSON ファイルの生成 7

JSON ファイルの手動生成 7

サンプル JSON ファイル 8

Salesforce Analytics コネクタ例 8

Salesforce Analytics ターゲットの操作 9

Salesforce Analytics コネクタの管理 9

第 2 章 : Salesforce Analytics 接続 10

Salesforce Analytics 接続のプロパティ 10

第 3 章 : Salesforce Analytics コネクタとの同期タスク 11

同期タスクの Salesforce Analytics ターゲット 11

同期タスクの例 12

第 4 章 : Salesforce Analytics でのマッピングとマッピングタスク 14

マッピングでの Salesforce Analytics ターゲット 14

同期タスクの Salesforce Analytics ターゲット 15

第 5 章 : データ型リファレンス 16

Salesforce Analytics とトランスフォーメーションデータ型 16

索引 17

序文

*Salesforce Analytics コネクタ*を使用して、Cloud Data Integration で Salesforce Analytics に対して読み取りまたは書き込みを行う方法について説明します。Cloud Data Integration での Salesforce Analytics 接続の作成、同期タスク、マッピング、マッピングタスクの開発と実行方法を確認します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム（infa_documentation@informatica.com）までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト（http://www.informatica.com/cloud）にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレース

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

https://marketplace.informatica.com/

データ統合コネクタのドキュメント

データ統合コネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、https://search.informatica.com にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム（KB_Feedback@informatica.com）です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center（https://www.informatica.com/trust-center.html）にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。Informatica Intelligent Cloud Services Status ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

登録するには、https://status.informatica.com/に移動し、**［更新を購読登録］**をクリックします。その後、電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィードとして、またはこの 4 つを任意に組み合わせて送信された通知を受信することを選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインでカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートについては、Informatica Intelligent Cloud Services の**［サポート要求の送信］**をクリックしてください。またオンラインサポートを使用して問題を記録することもできます。オンラインサポートを利用するには、ログインが必要です。https://network.informatica.com/welcome でログイン要求できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html に掲載されています。

第 1 章

Salesforce Analytics コネクタについて

Salesforce Analytics コネクタは、データ統合と Salesforce Analytics 間の接続を提供します。フラットファイル、データベース、アプリケーションなどのソースのデータを統合および変換して、Salesforce Analytics に書き出すことができます。Salesforce Analytics 上ではレポートを表示できます。

Salesforce Analytics ターゲットは、Salesforce Analytics オブジェクトモデル内のオブジェクトを表します。Salesforce Analytics オブジェクトとは、Salesforce Analytics Web サイトのタブやその他のユーザーインタフェース要素に対応するテーブルです。

Salesforce Analytics 接続は、同期タスク、マッピング、およびマッピングタスクで使用できます。

マッピングを詳細モードに切り替えて、高度な機能を有効にするためのトランスフォーメーションと関数を含めることができます。

注: パーティションが有効なソースからデータを読み取ることはできません。

Salesforce Analytics について

Salesforce Analytics はクラウドベースのプラットフォームで、複数のソースからのデータの接続、データの対話型ビューの作成、それらのビューのダッシュボードでの表示を実行します。

Salesforce Analytics を使用すると、分析データに即座にアクセスして、任意のデータソースのデータを探索できます。顧客関係管理（CRM）やエンタープライズリソースプランニング（ERP）などの複数のビジネスアプリケーションおよびソリューションのデータを 1 つのビューに統合できます。任意のデータソースのデータをネイティブの Salesforce クラウドサービスで安全に転送できます。販売、サービス、およびマーケティング担当のユーザーは、Salesforce Analytics レポートを使用することで、リアルタイムの情報を把握し、それに基づいて行動できます。

Salesforce Analytics コネクタアセット

あるタスクを実行するために Salesforce Analytics 接続を作成する場合、そのタスクに対して Salesforce コネクタでサポートされているオブジェクトを選択できます。

Snowflake Analytics コネクタを使用する場合は、次のようなデータ統合アセットを含めることができます。

- マッピング

- マッピングタスク
- 同期タスク

アセットとトランスフォーメーションの設定に関する詳細については、データ統合のドキュメントの「*マッピング*」、「*トランスフォーメーション*」、および「*タスク*」を参照してください。

Salesforce Analytics オブジェクト

Salesforce Analytics は、事前定義のメタデータを保持していません。Salesforce Analytics では、JSON ファイル形式を使用してメタデータを記述します。Salesforce Analytics スキーマ形式で記述されたメタデータを含む JSON ファイルを作成する必要があります。

JSON ファイルを作成するには、Salesforce Analytics にロードするデータが格納された.csv ファイルを作成します。Salesforce `datasetloader.jar` ファイルを使用して、.csv ファイルを JSON ファイルに変換します。

ターゲットの作成時に JSON ファイルを作成することもできます。［ターゲット］ページで、**［ターゲットの作成］**をクリックします。Secure Agent によって JSON ファイルが作成され、接続の作成時に指定した一時ディレクトリに保存されます。

JSON ファイルの生成

JSON ファイルを Salesforce Analytics コネクタにインポートする前に、JSON ファイルを作成する必要があります。

JSON ファイルを作成する前に、`datasetloader.jar` をダウンロードする必要があります。`datasetloader.jar` ファイルについては Salesforce にお問い合わせください。

1. サポートされているデータ型とデータを使用して.csv ファイルを作成します。
2. コマンドプロンプトで、`java -jar datasetloader.jar <ファイル名>.csv` コマンドを実行します。

   JSON ファイルが Salesforce Analytics スキーマ形式で作成されます。

JSON ファイルの手動生成

1. テキストエディタを開き、次の Salesforce Analytics スキーマ形式でデータを入力します。

```
{
  "fileFormat" : {

  },
  "objects" : [ {
    <object_detail>,
                "fields" : [ {
                               <Field1 details>
                }
                {              <Field2 details>
                }......
    ]
}]
}
```

2. ファイルを.json 形式で保存して閉じます。

サンプル JSON ファイル

次の例は、Salesforce Analytics スキーマ形式のサンプル JSON ファイルです。

```
{
  "fileFormat" : {
    "charsetName" : "UTF-8",
    "fieldsDelimitedBy" : ",",
    "fieldsEnclosedBy" : "\"",
    "linesTerminatedBy" : "\n",
    "numberOfLinesToIgnore" : 1
  },
  "objects" : [ {
    "name" : "emp_hf2",
    "fullyQualifiedName" : "emp_hf2",
    "connector" : "SalesforceAnalyticsCloudDatasetLoader",
    "label" : "emp_hf2",
    "description" : "emp_hf2",
    "acl" : null,
    "rowLevelSecurityFilter" : null,
    "fields" : [ {
      "name" : "id",
      "fullyQualifiedName" : "id",
      "label" : "id",
      "description" : "id",
      "type" : "Int",
      "precision" : 10,
      "scale" : 0,
      "defaultValue" : "0",
      "format" : null,
      "isSystemField" : false,
      "isUniqueId" : false,
      "isMultiValue" : false,
      "multiValueSeperator" : null,
      "acl" : null,
      "fiscalMonthOffset" : 0
    }
} ]
```

Salesforce Analytics コネクタ例

あなたは企業の販売アナリストとして、売上の全体的な成長トレンド、売上の地理的分布、上得意客を追跡し、売上分布のスナップショットを上級管理者にプレゼンテーションしたいと考えています。

それには、複数のソースからのデータを統合し、そのデータをフィルタリングして、Salesforce Analytics コネクタを介して Salesforce Analytics 上で使用可能にします。その後、データを分析に使用します。地理的な場所、製品カテゴリ、顧客セグメント別のビューなどでデータを視覚的に表示することにより、利益性を把握できます。

注: フィールド名に 2 つの連続したアンダースコアが含まれていないことを確認してください。ただし、データを読み取るときには、フィールド名のサフィックスとして__c を使用できます。

Salesforce Analytics ターゲットの操作

次の表に、同期およびマッピングタスクでの Salesforce Analytics ターゲットの操作を示します。

プロパティ	説明
ターゲットロードタイプ	［ノーマル］モードまたは［一括］モードを選択できます。デフォルトは［ノーマル］モードです。
挿入	Salesforce Analytics データベースに行を挿入します。
削除	Salesforce Analytics データベースから行を削除します。［削除］を有効にすると、Secure Agent は「削除」とフラグ付けされているすべての行を削除します。［削除］を無効にすると、Secure Agent は「削除」とフラグ付けされているすべての行を拒否します。
更新/挿入	［更新/挿入］を有効にすると、Secure Agent はレコードを更新/挿入し、外部 ID をターゲット定義のトランスフォーメーションを介してソースの外部 ID フィールドにリンクします。Salesforce ユーザーは［更新/挿入］を使用して更新/挿入される必要があるレコードを識別します。

Salesforce Analytics コネクタの管理

ユーザーが Salesforce Analytics コネクタを使用するには、成功ファイルおよびエラーファイルが格納された Secure Agent ディレクトリに対するアクセス権がユーザーに与えられていることを組織の管理者が確認する必要があります。このディレクトリパスは、各 Secure Agent マシンのランタイム環境で同じである必要があります。

タスクの作成または実行時に Java のヒープ領域エラーが発生しないようにするには、Secure Agent のシステム構成の詳細で、-Xmx 値を増やすようにタイプ DTM の JVM オプションを設定します。例えば、-Xmx1024m のようにします。プロパティを有効にするには、Secure Agent を再起動します。

第 2 章

Salesforce Analytics 接続

Salesforce Analytics 接続を作成すると、Salesforce Analytics にデータを書き出すことができます。

Salesforce Analytics 接続を使用して、 同期タスクとマッピングタスクでターゲットを指定できます。Salesforce Analytics 接続を作成する際には、Salesforce Analytics 固有のプロパティを入力します。

Salesforce Analytics 接続は、同期タスクウィザードの マッピング［管理者］ >［接続］ページで、 またはタスクの作成時に タスクウィザードで 作成できます。作成した接続は、組織全体で使用できるようになります。

注: Salesforce Analytics への接続が失敗すると、Secure Agent は接続を確立するために 300 秒間隔で最大 3 回の試行を再試行します。

Salesforce Analytics 接続のプロパティ

Salesforce Analytics 接続をセットアップする際には、接続プロパティを設定する必要があります。

次の表に、Salesforce Analytics 接続のプロパティを示します。

接続プロパティ	説明
ランタイム環境	タスクを実行するランタイム環境の名前。
ユーザー名	Salesforce Analytics アカウントのユーザー名
パスワード	Salesforce Analytics アカウントのパスワード。
セキュリティトークン	信頼されていないネットワークから Salesforce Analytics にログインするときに使用するトークン。
サービス URL	アクセス先の Salesforce Analytics サービスの URL。例: `https://login.salesforce.com/services/Soap/u/48.0` テストまたは開発環境で、Salesforce Analytics Sandbox テスト環境にアクセスできます。
一時フォルダ名	Secure Agent が JSON ファイルと Data Archive ファイルを格納するディレクトリ。タスクが正常に実行された後、一時的な.gz ファイルは削除されます。
デフォルトの日付形式	JSON ファイルの日付列を読み取るための日付形式。

第 3 章

Salesforce Analytics コネクタとの同期タスク

同期タスクを使用して、ソースとターゲットの間でデータを同期します。

同期タスクは、同期タスクウィザードを使用して設定できます。

タスクを作成するときにタスクをスケジュールと関連付けて、指定した時刻に、または定期的にタスクを実行することができます。または、手動でタスクを実行できます。現在実行されているタスクをアクティビティモニタで監視し、完了したタスクに関するログをアクティビティログで確認できます。

同期タスクの Salesforce Analytics ターゲット

Salesforce Analytics オブジェクトは同期タスクでターゲットとして使用できます。

Salesforce Analytics ターゲットオブジェクトを使用する場合は、標準のオブジェクトをプライマリソースとして選択できます。

同期タスクウィザードの同期タスクウィザードの［**スケジュール**］ページ。

次の表に、Salesforce Analytics の詳細ターゲットプロパティを示します。

詳細ターゲットプロパティ	説明
ターゲットロードタイプ	セッションのデフォルトのロードタイプを設定します。標準ロードまたは一括ロードを選択できます。
ターゲットフォルダ	Salesforce Analytics でターゲットの場所を設定します。
ターゲットデータセットのオーバーライド	Salesforce Analytics にデータをロードする前にターゲットデータを上書きします。

詳細ターゲットプロパティ	説明
成功ファイルディレクトリ	成功行ファイルのディレクトリ。成功行ファイルを保存するには、ランタイム環境の各 Secure Agent マシンで使用可能なディレクトリパスを指定する必要があります。管理者からこのディレクトリに対するアクセス権が与えられていることを確認します。 ディレクトリを指定しない場合、成功行ファイルは作成されません。
エラーファイルのディレクトリ	エラー行ファイルのディレクトリ。デフォルトでは、エラー行ファイルは Secure Agent の次のディレクトリに出力されます。`<Secure Agent のインストールディレクトリ>\apps\Data_Integration_Server\data\error` 各 Secure Agent マシンのランタイム環境で使用可能なディレクトリパスを指定します。管理者からこのディレクトリに対するアクセス権が与えられていることを確認します。

同期タスクの例

小売業界のある企業で、ビジネスアナリストが、特定の地域での製品の売り上げ傾向を分析しようとしています。

売上レコードファイルには、複数の直販店や地域で販売される製品に関する情報を格納できます。Salesforce では、売上レコードのデータを統合できます。

Salesforce Analytics に書き出す同期タスクを設定します。

次の同期タスクを実行します。

同期タスクを定義します。

挿入操作に使用する同期タスクを設定します。

Salesforce **ソースオブジェクトを使用します。**

同期タスクのソースは、製品売上データが含まれている Salesforce 接続です。Salesforce オブジェクトは同期タスク内の単一のソースです。Salesforce の行 ID、注文 ID、注文個数、注文日、単価、地域、製品カテゴリの各ソース列を取り込みます。*SALES_RECORDS* をソースオブジェクトのリソースとして指定します。

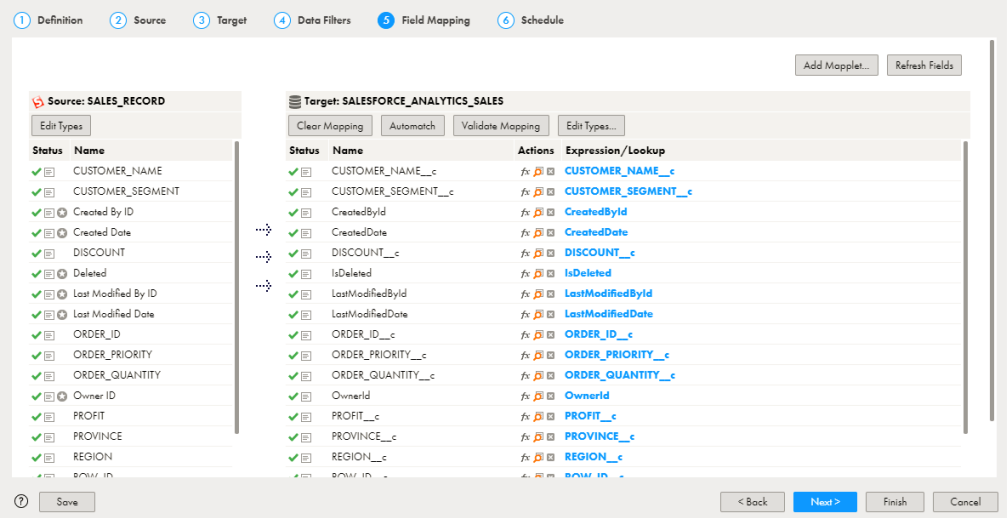
Salesforce Analytics **ターゲットオブジェクトを作成します。**

Row_Id、*Order_Id*、*Order_Quantity*、*Order_Date*、*Unit_Price*、*Region*、および *Product_Catagory* の各フィールドを、ターゲットオブジェクトに挿入するソースオブジェクトから選択します。ターゲットオブジェクトの名前として *SALESFORCE_ANALYTICS_SALES* と入力し、接続タイプとして Salesforce Analytics を指定します。同期タスクによって、接続で指定した場所の各フィールドが入力されます。

フィールドマッピングを設定します。

SALES_RECORDS ソースデータの下のすべてのフィールドを、ターゲット *SALESFORCE_ANALYTICS_SALES* のすべてのフィールドにマッピングします。同期タスクによって、マッピングしたソースデータが Salesforce Analytics に書き込まれます。

次の図は、*SALES_RECORDS* ソースを *SALESFORCE_ANALYTICS_SALES* ターゲットにマッピングする様子を示しています。

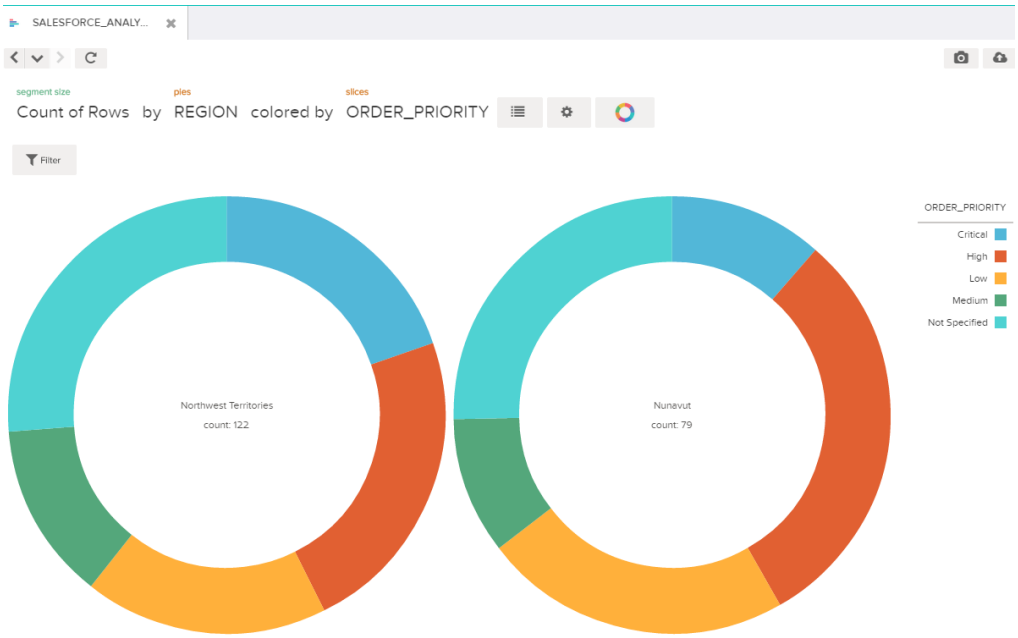


詳細ターゲットプロパティを設定します。

詳細ターゲットプロパティで、Salesforce Analytics をパブリッシュするように選択します。プロジェクト名 *Salesforce_Analytics_Sales* とサイト名 *Sales* を入力します。各 Secure Agent マシンのランタイム環境で使用可能なディレクトリパスを指定します。タスクを保存して実行します。

Salesforce Analytics で該当するサイトを開いて、エクスポートされたデータを視覚化します。

次の画像は、Salesforce Analytics で地域別に分類されたデータを示しています。



第 4 章

Salesforce Analytics でのマッピングとマッピングタスク

マッピングを作成するには、データ統合の Mapping Designer を使用します。詳細モードの Mapping Designer は、高度な機能を実現するトランスフォーメーションや関数を含むようにマッピングキャンバスを更新します。

マッピングでの Salesforce Analytics ターゲット

マッピングを作成する際には、1 つの Salesforce Analytics オブジェクトを表すようにターゲットトランスフォーメーションを設定できます。

次の表に、Salesforce Analytics ターゲットのプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続	ターゲット接続の名前。
ターゲットオブジェクト	1 つのターゲットのターゲットオブジェクト、または複数のターゲットのプライマリターゲット。

注: ターゲットオブジェクト名として次のいずれも使用できません。

- Unicode 文字
- Java 言語のキーワード（定数、演算子、ビルトイン変数など）。これらのキーワードは特定の関数用に予約されています。例: NULL、NEW、SYSDATE、AND、OR、TRUE、FALSE、SET

次の表に、Salesforce Analytics の詳細なプロパティを示します。

詳細プロパティ	説明
ターゲットロードタイプ	マッピングのデフォルトのロードタイプを設定します。標準ロードまたは一括ロードを選択できます。
ターゲットフォルダ	Salesforce Analytics でターゲットの場所を設定します。

詳細プロパティ	説明
ターゲットデータセットのオーバーライド	Salesforce Analytics にデータをロードする前にターゲットデータを上書きします。
成功ファイルディレクトリ	成功行ファイルのディレクトリ。成功行ファイルを保存するには、ランタイム環境の各 Secure Agent マシンで使用可能なディレクトリパスを指定する必要があります。管理者からこのディレクトリに対するアクセス権が与えられていることを確認します。 ディレクトリを指定しない場合、成功行ファイルは作成されません。
エラーファイルのディレクトリ	エラー行ファイルのディレクトリ。デフォルトでは、エラー行ファイルは Secure Agent のディレクトリ`<Secure Agent installation directory>/apps/Data_Integration_Server/data/error` に出力されます。 各 Secure Agent マシンのランタイム環境で使用可能なディレクトリパスを指定します。管理者からこのディレクトリに対するアクセス権が与えられていることを確認します。

同期タスクの Salesforce Analytics ターゲット

統合テンプレートに基づいてマッピングタスクを設定する場合は、Salesforce Analytics ターゲットの詳細なプロパティを設定できます。

Salesforce Analytics ターゲット接続をテンプレートベースのマッピングタスクで使用する場合では、マッピングタスクウィザードの［**ターゲット**］ページで詳細プロパティを設定できます。

次の表に、Salesforce Analytics の詳細なプロパティを示します。

詳細プロパティ	説明
ターゲットロードタイプ	マッピングのデフォルトのロードタイプを設定します。標準ロードまたは一括ロードを選択できます。
ターゲットフォルダ	Salesforce Analytics でターゲットの場所を設定します。
ターゲットデータセットのオーバーライド	Salesforce Analytics にデータをロードする前にターゲットデータを上書きします。
成功ファイルディレクトリ	成功行ファイルのディレクトリ。成功行ファイルを保存するには、ランタイム環境の各 Secure Agent マシンで使用可能なディレクトリパスを指定する必要があります。管理者からこのディレクトリに対するアクセス権が与えられていることを確認します。 ディレクトリを指定しない場合、成功行ファイルは作成されません。
エラーファイルのディレクトリ	エラー行ファイルのディレクトリ。デフォルトでは、エラー行ファイルは Secure Agent の次のディレクトリに出力されます。`<Secure Agent のインストールディレクトリ>\apps\Data_Integration_Server\data\error` 各 Secure Agent マシンのランタイム環境で使用可能なディレクトリパスを指定します。管理者からこのディレクトリに対するアクセス権が与えられていることを確認します。

第 5 章

データ型リファレンス

データ統合では、Salesforce Analytics によるマッピング、同期タスク、マッピングタスクで次のデータ型を使用します。

Salesforce Analytics **ネイティブデータ型**

Salesforce Analytics データ型は、ターゲットトランスフォーメーションでフィールドのメタデータを編集するときに使用されます。

トランスフォーメーションデータ型

トランスフォーメーションで表示されるデータ型のセットです。ANSI SQL-92 汎用データ型に基づく内部データ型で、プラットフォーム間でデータを移動するとき Secure Agent によって使用されます。トランスフォーメーションデータ型は、マッピング、同期タスク、およびマッピングタスクのすべてのトランスフォーメーションで表示されます。

データ統合は、ソースデータを読み取るときに、ネイティブデータ型を対応するトランスフォーメーションデータ型に変換してから、データのトランスフォームを実行します。データ統合は、ターゲットに書き込むときに、トランスフォーメーションデータ型を対応するネイティブデータ型に変換します。

Salesforce Analytics とトランスフォーメーションデータ型

次の表に、Secure Agent がサポートしている Salesforce Analytics データ型と、対応するトランスフォーメーションデータ型の一覧を示します。

Salesforce Analytics データ型	トランスフォーメーションデータ型	説明
DateTime	Date/Time	西暦 0001 年 1 月 1 日～西暦 9999 年 12 月 31 日（精度はナノ秒まで）
Int	Integer	-2,147,483,648～2,147,483,647 精度 10、位取り 0 整数値。
String	String	1～104,857,600 文字

索引

C

Cloud Application Integration コミュニティ
URL 4
Cloud 開発者コミュニティ
URL 4

I

Informatica Intelligent Cloud Services
Web サイト 4
Informatica グローバルカスタマサポート
連絡先情報 5

O

ODBC
同期タスク 11

S

Salesforce Analytics
ターゲットトランスフォーメーション 14
マッピングタスクでのターゲット 15
マッピングのターゲット 14
接続プロパティ 10
同期タスクのターゲット 11
Salesforce Analytics コネクタ
Salesforce Analytics について 6
データ型 16
メタデータファイルの作成 7
概要 10

W

Web サイト 4

あ

アップグレード通知 5

し

システムステータス 5

す

ステータス
Informatica Intelligent Cloud Services 5

た

ターゲット
マッピングタスクでの Salesforce Analytics 15
マッピングでの Salesforce Analytics 14
同期タスクでの Salesforce Analytics 11
ターゲットトランスフォーメーション
Salesforce Analytics のプロパティ 14

て

データフィルタ 12
データ型リファレンス
概要 16

ま

マッピング
Salesforce Analytics ターゲットプロパティ 14
マッピングタスク
Salesforce Analytics ターゲットプロパティ 15

め

メタデータファイル 9
メンテナンスの停止 5